

## はじめに

2019年度筑波大学大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期課程修了者の修士学位論文抄録集を刊行いたします。本研究科の定める学位論文（修士）の審査基準では、研究テーマの意義、先行研究の把握と理解、研究方法の妥当性、結論とそれに至る論理の妥当性、体裁・構成の適切さ、文献・資料の適切な引用のすべてが妥当もしくは達成されたと認められる学位申請論文を、最終試験を経た上で、修士論文として合格とするとしております。そのような審査を経て合格と認められた修士論文の抄録集には研究科の多様で先端的な研究の成果が集結しております。論文完成に至るまでの大学院生各位の努力を讃えるとともに、指導教員、副指導教員や査読者を始めとする論文作成に関わられた教員各位および学生の研究活動を支えられた支援室の職員の方々に感謝申し上げます。

図書館情報メディア研究科は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成」することを使命としてかけ、社会における知識・情報の共有や、その仕組みとしての図書館や情報ネットワークを対象にした、人文学、社会科学、理工学等の多様なアプローチからの総合的・複合的な教育研究を行っております。そのような多面性を実現し、かつ大学院教育の実質化を推進するという観点から、本研究科博士前期課程では、修士（図書館情報学）と修士（情報学）の2つの学位に対応した教育プログラム、および修士（図書館情報学）に対応した社会人向けの図書館情報学キャリアアッププログラム（CUP）と留学生向けの図書館情報学英語プログラム（EP）を提供しております。今年度は、こうした教育課程で学んだ大学院生47名（うち修士（図書館情報学）19名（CUP2名及びEP4名を含む）、修士（情報学）28名）が修士の学位を取得しました。

博士前期課程の修了生は、公的機関や企業等で図書館情報メディアに係る専門家として実務に携わるもの、将来この領域の先駆的な研究者になるべく博士後期課程に進学するものなどさまざまです。どのような職であれ、修了者各位が本研究科で学んだことや修士論文を完成させるまでの研究生活の中で得た知見を活かし、知識情報社会のフロンティアとして今後活躍されることを、教職員一同、心より期待いたします。

2020年3月

図書館情報メディア研究科長 中山 伸一

## 目 次

《 修士 (図書館情報学) 》

五十嵐 智哉	図書館評価法の変遷と特徴	1
鈴木 花	学校図書館を活用した調べ学習を支援するプログラムの開発と評価	2
土屋 深優	ロンドン自治区におけるコミュニティ図書館 —社会的包摂概念の視点から—	3
中井 ともこ	デンマークにおける複合図書館の理念と実態： オーフス市を事例として	4
成田 沙紀	公共図書館の地域間格差	5
三島 大暉	文化財リストを用いた地域文化遺産情報の集約と連携	6
嶺井 尚子	公立図書館における生活困窮者自立支援サービス	7
宮崎 恵実	オタクはなぜ貢ぐのか - 「推し」にかかわる消費行動の合理化に着目して -	8
村田 龍太郎	ESCI における OA、被引用状況	9
WU LIANG	広告リテラシー及び健康に関する態度・知識・意識の促進要因に関する 検討：日本と中国の大学生の比較	10
鄧 蒙	公共図書館の地方文献サービスに関する中国と日本の比較研究	11
李 皓	米中における大学図書館の情報リテラシーゲームの比較研究	12
櫻井 美幸	学校と併設・複合された公共図書館の現状と課題	13
劉 遲	米国の図書館におけるインスタグラムの利用実態	14

Tha n a n d o n I M A R O M K U L	Heart and Blood Flow Simulation using Position Based Dynamics ...	15
Nishad Thalhath R e h u m a t h	Maintaining and Publishing Metadata Application Profiles with Extensible Authoring Format .....	16
P a n i k k a M u d i y a n s e l a Nadeesha Kumari W i j e r a t h n a	A Crowdsourcing Approach to Finding Evidences .....	17
A s m a e Z A I D A N E	The combined RDS and RDM Lifecycle Model in Academic Libraries .....	18
中 田 周 育	大学生の Twitter 使用における社会的比較と友人関係満足度との関係	19

《 修士 (情報学) 》

嵐 一 樹	意味構造に着目したシーングラフ生成手法の提案	20
有 友 大 輔	安全な類似ドキュメント検索のためのインデックスを使った高速化手法	21
池 田 周 平	IRM に基づくジャズアドリブの構造分析 -バップとモード間の比較-	22
稲 福 和 史	複雑ネットワークにおける出現位置と役割に着目した効率的な成長誘発エッジ抽出に関する研究	23
Miyu Iwafune	Soft Manipulator using Lamina Emergent Torsion Array Including Isolated Structure	24
大 石 康 介	複数の Web リソースを組み合わせたマンガ・アニメ・ゲーム作品のナレッジグラフ構築	25
太 田 凌	行列のグレースケール画像を用いた BiCG 法の収束予測	26
小 邦 将 輝	BERT を利用した文書間類似度と単語埋め込み間の対応に着目した重複レシピの検出	27
河 合 優 理 子	聴覚障害者を対象とした 3 パート曲のリズム認知に関する研究	28
川 島 涼 太	和音分散表現に基づく和声スタイル分析	29
三 枝 陽 介	認知負荷の軽減を考慮した親しみやすい対話型擬人化エージェントのデザインの検討 —インタラクション開始時の印象を中心に—	30
佐 藤 守 任	ソーシャルグループを考慮した歩行者のサブゴール推定と歩行軌跡予測	31
S a t o Y u t a	Generation of airborne speakers using laser-induced breakdown	32
鈴 木 健 太	多結晶電子回折像の解析におけるデータ科学的手法の推定モデル	33
坪 井 悠 冬 里	ラベル付き有向グラフに対する Shape Expression Schema の抽出	34

出 村 佑 史	流体との相互作用を考慮した毛髪 <span>の</span> 塑性変形シミュレーション ……………	35
藤 永 健	有向グラフに対する Shape Expression Schema <span>の</span> 妥当性検証及び修正手法の提案 ……………	36
降 籟 直 人	移動ロボットのための自由視野と半自律制御を用いた遠隔操作手法 ……	37
松 田 悠 平	動的マイクロタスクによる市民意見の収集・整理に関する研究 ……………	38
宮 澤 響	日本のポピュラー音楽のセクション識別に関する研究 ……………	39
森 山 治 紀	和音構成に基づく楽音の分散表現学習とその応用 ……………	40
Keita Yamazaki	Analysis of Phasor Distortions by Fog in Time-of-Flight Measurement	41
山 中 勇 樹	メタデータの参照関係とスキーマに基づく LOD 間の類似性および併用可能性算出手法 ……………	42
W E N G R E N L O U	Author-Oriented Book Recommendation Using Linked Open Data for Improving Serendipity ……………	43
CHEN XINNAN	A Study on Estimation Method of L2 Learner 's Second Language Ability by using Features in Conversation ……………	44
K a n g k a n g Z H A O	A Method for Classifying Temporal Relations Using Attention- based Neural Networks ……………	45
Chen Yaohao	Speech Synthesis System by Lip Motion to Help Acquired Voice Disorders Speak Again ……………	46
田 寺 琢 人	BGM が課題遂行時のストレスとパフォーマンスに及ぼす影響 ……………	47

